

# 運輸事業の安全に関するシンポジウム2015

## 当社運輸安全マネジメントの 10年とこれから

2015年12月7日

阪急バス株式会社



## 設立

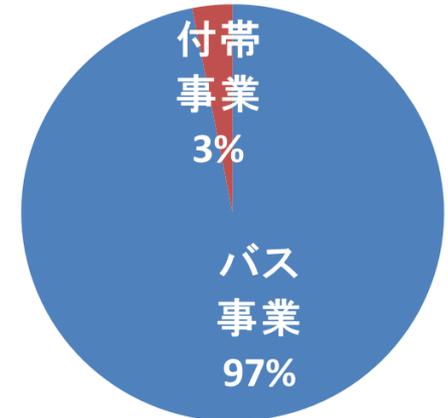
1927(昭和2)年7月24日 (本社:大阪府豊中市)

## 売上高

226億円 (2014年度)

一般路線 ・ 輸 送 人 員 : 94,928千人/年  
・ 実車走行キロ : 30,374千キロ/年  
高速路線 ・ 14路線(76便/日)

売上高に占めるバス事業比率



## 従業員数

1,546人 (うち、運転士1,327人)

## 営業所数

17箇所 (内、阪急田園バス(株) 7箇所・神鉄バス(株) 1箇所)

## 車両数

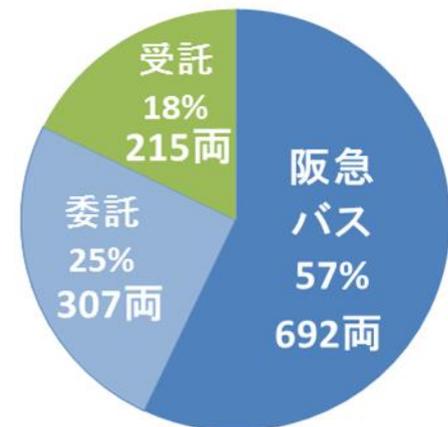
999両 (一般路線 893両、高速 52両、貸切他 54両)

## 事業委託

車両数合計 307両

阪急田園バス(株) 車両数 277両  
神鉄バス(株) 車両数 30両

全管理車両の比率



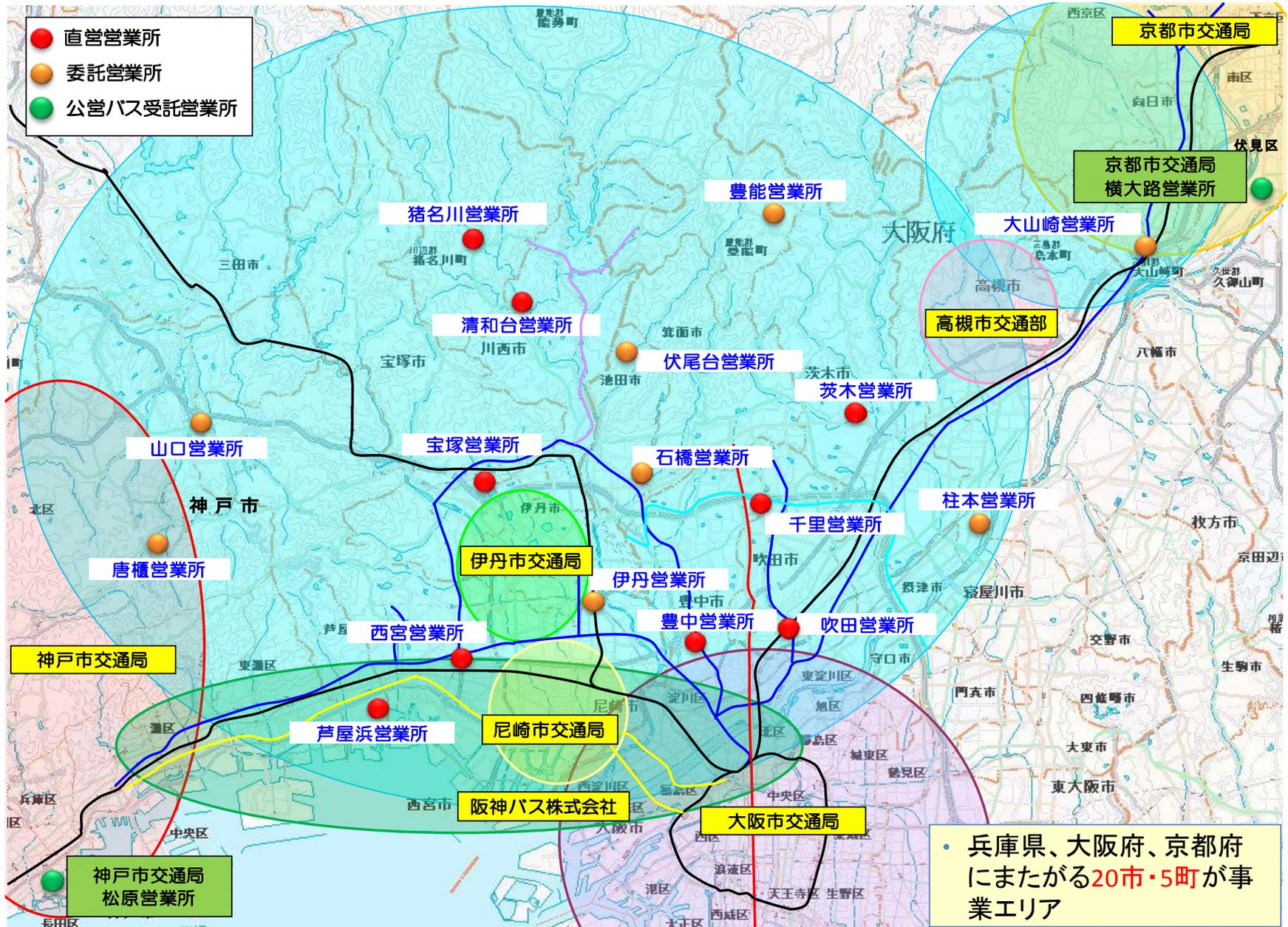
## 受託事業

車両数合計 215両

京都市交通局 横大路営業所 車両数 91両  
神戸市交通局 松原営業所 車両数 124両

# 1. 会社概要

## 事業エリア



## 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

### 運輸安全マネジメント導入前の当社の状況

#### 自動車運送事業の特性

- ・ 運行中の安全が全て運転者に委ねられる
- ・ 経営者の安全意識に左右されやすい

#### 当社の状況

- ① 安全に対する明確なビジョンが全員に明示できていなかった。
- ② 安全を全体的に管理する体制が不十分であった。  
(安全対策が個別対応で、ともすれば担当部署間の連携不足で全体を俯瞰する体制が整っていなかった。)
- ③ 教育については現場での事故惹起者教育等、事後対応的な教育が中心で、事故の未然防止のための教育体系が十分に確立されていなかった。
- ④ 情報共有は上意下達の傾向が強かった。
- ⑤ 文書・記録等の保存・管理は旅客自動車運送事業運輸規則等に定められている他は、社内ルールにバラツキがあり、発生事象・経験を蓄積し、分析活用する仕組みが確立されていなかった。

## 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

### 当社における運輸安全マネジメント導入のポイント

①自発性尊重によるモチベーションアップとベクトル合わせ

②双方向コミュニケーションの充実

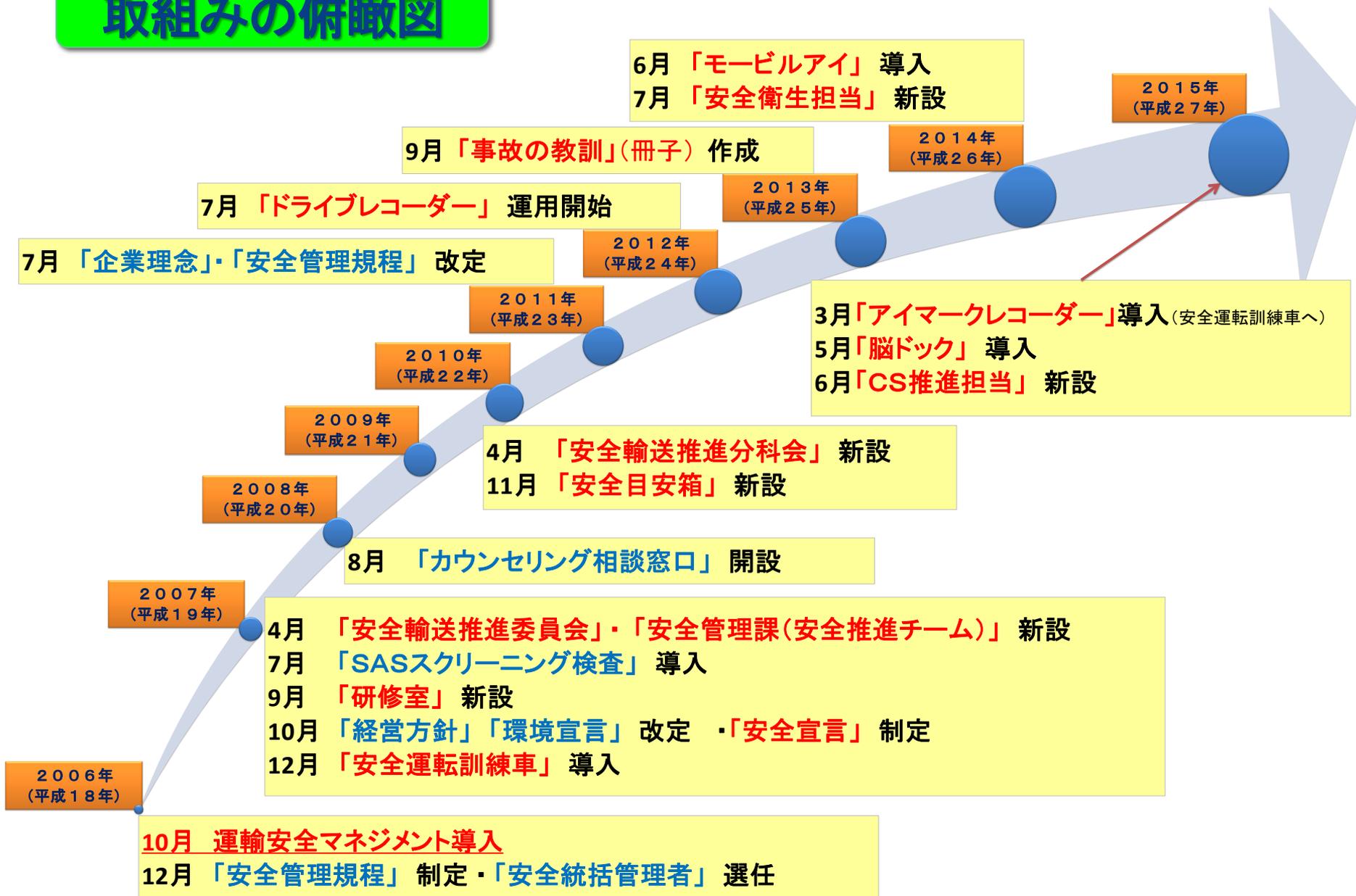
③継続性と体系化



**組織・会議体・教育の見直し**

## 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

### 取組みの俯瞰図



## 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

### 安全最優先の意識と価値観の共有

#### 安全宣言

- ・ 当社運輸安全マネジメントの原点
- ・ 事業運営をはじめ様々な事項において立ち返る原点

### 安全宣言

「輸送の安全の確保」は、社会に対する最大の責務であり、阪急バスグループの存立基盤です。私たちは、かけがえのない「尊い命」を決して傷つけることのないよう、一人ひとりが誠実な執務を積み重ねることを固く誓い、ここに安全宣言をいたします。

## 安全はすべてに優先する

#### 安全の確保に 近道はなし

厳正な執務が安全の原点であることを忘れません。

#### 安全の確保に 妥協はなし

現状に満足することなく更なる安全を目指します。

#### 安全の確保に 終わりなし

安全という終わりのない命題に向かい、日々自己研鑽に努めます。

#### 安全スローガン

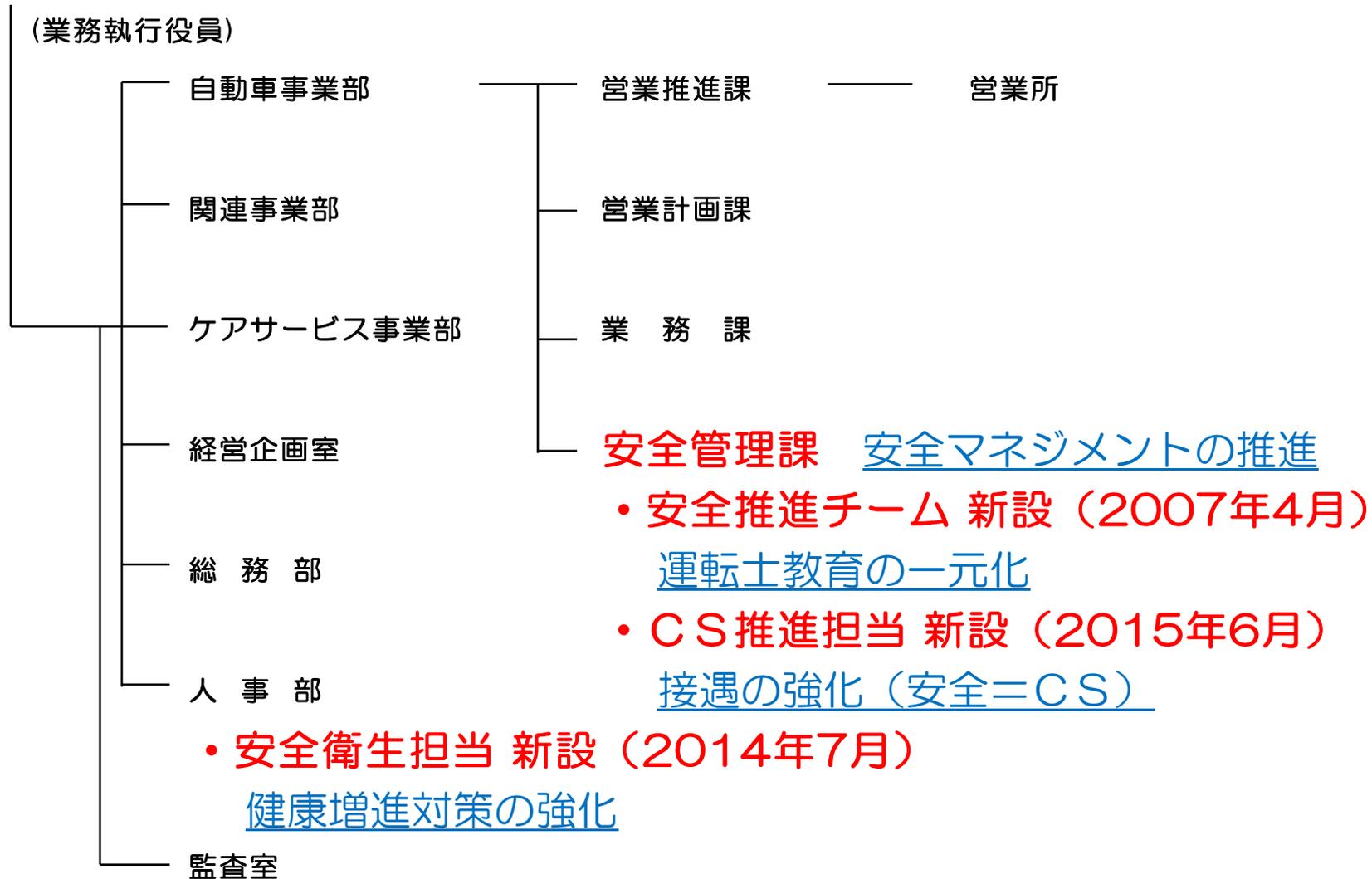
### 安全スローガン 2015

「速度抑制」と「交差点での安全確認」

## 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

### 業務組織の変更

代表取締役





## 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

### 教育の見直し

#### 運転士教育体系の再構築

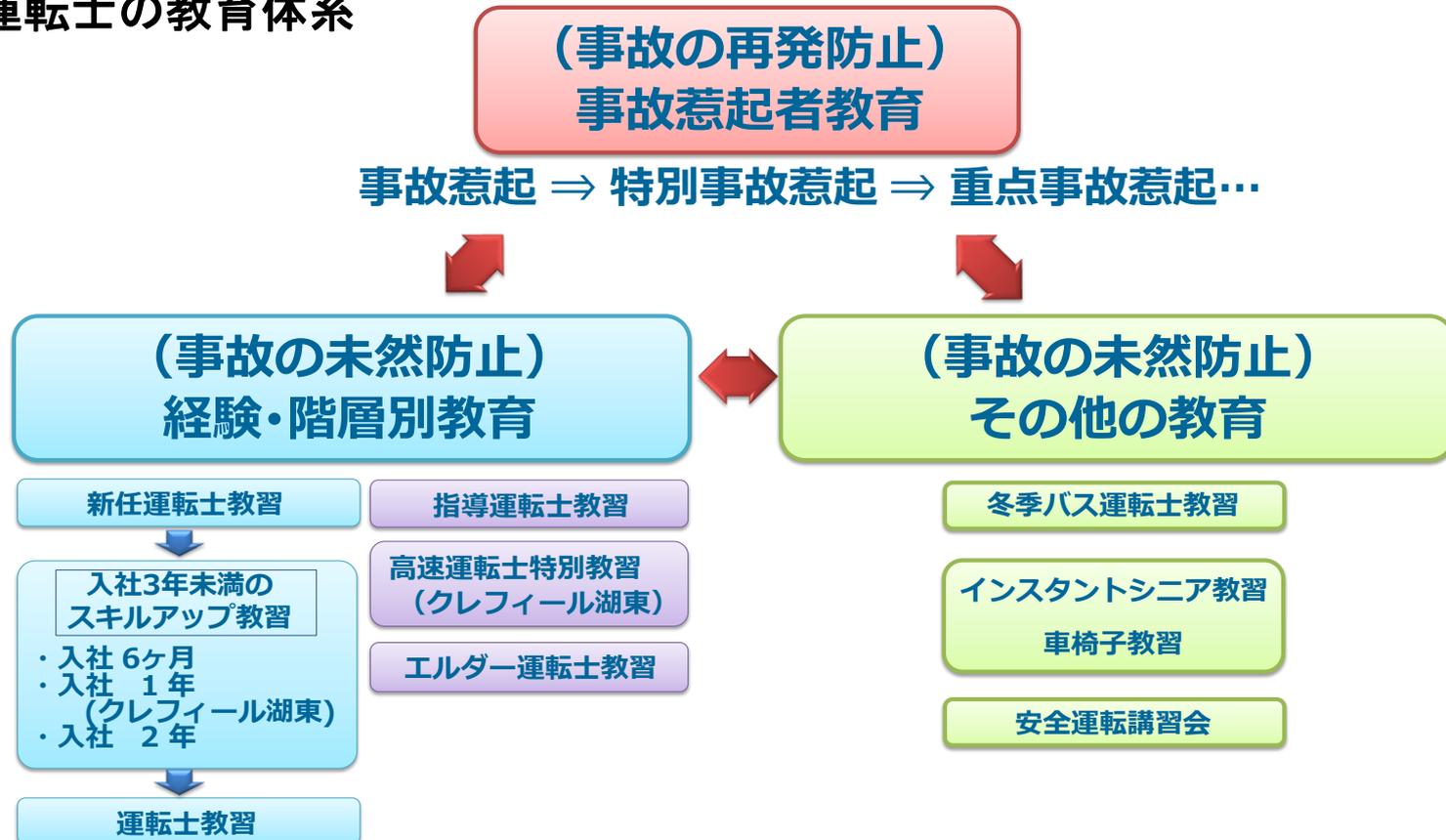
- ・運転士教育の基本的な考え方

参加体験型

問題解決型

双方向コミュニケーションによる気づき

- ・運転士の教育体系



## 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

### 施設等の充実と外部教育機関の活用

- ・視聴覚教育に対応した教習施設の新設
- ・安全確認の疎漏・アクセルワーク・車体の動揺・エコドライブ等、運転技能の見える化の推進

研修室



安全運転訓練車の設備



外部教育機関の活用(クレフィール湖東)



車内動静確認用の“人形”



アイマークレコーダーと燃料消費確認メスシリンダー



## 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

### 双方向コミュニケーションの機会充実

#### 無事故運転士表彰式および座談会の開催

当社創立記念日に「無事故運転士表彰式」を開催。表彰式後、受賞者との「座談会」で事故防止の取組みや心構え等について懇談、社内誌で内容をフィードバックし共有。

#### 《受賞者の運行における心構え》

- ・ 運転中のヒヤリハット等の出来事をメモし、次の運行での予知予見に活用する
- ・ 時間に余裕を持ち、自分のペースやスタイルを崩さない
- ・ 一呼吸おいての行動を心がける
- ・ 色々な場面で「もしも…」という想像をしながら運行する
- ・ 家族の写真を持って乗務する

#### 《例年共通する無事故の秘訣》

過去の経験を生かした予知予見

日々の自分を支える周囲の方々への自覚と、感謝

座談会



# 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

## 個人面談の取組み

### 「無事故の心得」を活用した個人面談（現業従業員全員に毎月発行）

- ・ 事故、トピックス等の紹介による安全意識と運転技術の更なる向上
- ・ 道路運送法や交通ルールの理解度の向上
- ・ 健康管理の重要性の認識向上
- ・ 飲酒運転、薬物使用禁止等の啓発 等

2015年7月

運転士各位

「無事故の心得」(2015年7月号)

#### 1. 車内事故防止キャンペーンについて

当社では昨年度、「バス停発進時」の車内事故が、発生した車内事故全体の半数を占める状況で、お詫言をされたお客様の特徴も全国と同様に「高齢の女性」が大半です。

車内事故の全国的な発生状況は、「発進時」の発生状況が例年トップであり、次いで「減速時」や「停止時」となっています。

お詫言をされる方の特徴は、周知の通り「ご高齢の女性」であります。しかし、男女問わず高齢者のお客様が転倒によりお詫言をされる可能性が高くなることは言うまでもありません。

これらの状況から、本年の全国的な重点項目には、新たに「**停留所発進時における安全基本動作を徹底する**」という項目が加えられています。

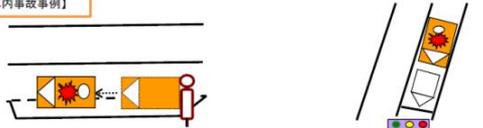
当社では昨年度、「バス停発進時」の車内事故が、発生した車内事故全体の半数を占める状況で、お詫言をされたお客様の特徴も全国と同様に「高齢の女性」が大半です。

事故発生時の車内状況は立ち客も少なく、空席がある状況であることから、「発進前に車内確認し、特に高齢のお客様の着座を待つ」ことで未然に防止できた可能性が十分にあると思われまます。

これらを踏まえ、今年度は当社の事故防止強化月間として、本キャンペーンの取組みを8月末まで延長し、車内事故防止に集中的に取り組みます。

車内確認の徹底、特に高齢のお客様がご乗車の際は着座確認後の発進とマイクによる発進案内で車内事故を防止しましょう。

【車内事故事例】



停留所発進時、車内確認とマイク案内を怠り発進したため、車内中央部に立たれていたお客様が発進時の動揺により転倒、負傷させた事故。

信号待ちから発進した際、車内確認とマイク案内を怠り発進したため、手すりから手を離され立たれていたお客様が発進時の動揺により転倒、負傷させた事故。

#### 2. 停留所発進時の車内事故防止のポイント

- ① 停留所に着ける際、お待ちのお客様をよく観察する。(高齢者、杖を持っている、手荷物あり等)
- ② ギアはニュートラル・サイドブレーキの活用
- ③ 乗車後は、車内ミラーを注視し、着席まで確認する。
- ④ 完全に着席、つり革を持たれたことを確認してから発進準備に入る。
- ⑤ 発進のマイク案内後に、スムーズに発進する。

各ミラーの合わせ方	1. 乗降口ミラー	2. 小判型ミラー	3. 中央ミラー
	乗車口(内)ミラーと居後席が確認できる位置	通路ステッカーが確認できる位置	黄色マークが中央に確認できる位置
			

#### 3. ベビーカーを利用されるお客様の対応と周知について

バリアフリー化の進展に伴いお子連れでの外出が増加してきた結果、公共交通機関等でのベビーカー利用に関するトラブルも増加しています。

このため、国土交通省のベビーカーを利用しやすい環境をつくるための協議会で検討した結果、公共交通機関でのベビーカーの安全な利用方法を定めるとともに、周囲への協力をお願いする統一した「ベビーカーマーク」が公表されました。

当社では昨年、路線バス全車の車椅子優先席へ、ベビーカーの固定ベルトを取り付けましたが、ベビーカー利用のお客様が安全にご乗車いただくための周知啓発をいっそう四ため、全車両へステッカーを設置します。

趣旨をご理解いただき、車内環境の維持に努めていただきますようお願いいたします。

参考:「公共交通機関等におけるベビーカー利用に関する協議会とりまとめ」(バス関連の要約抜粋)

- ①ベビーカーの折り返しについて  
公共交通機関でベビーカーを折り返しに使用できることを基本とする。
- ②ベビーカー利用者への「安全な使用」のお願いについて  
・ 車内では進行方向後ろ向きに固定ベルトで固定すること。  
・ 必ず車輪のストッパーをかけ、手を添えて目を離さないようにすること。  
・ お子様の肩と腰のシートベルト着用のこと。
- ③第三者への「ベビーカー利用への理解・配慮」に関するお願いについて  
第三者のサポートなど、歯がいり気持で接すること等、周囲の協力をお願いを周知啓発する。
- ④車椅子スペースの活用について  
公共交通機関等でベビーカー使用者が安心して利用できるスペースについては、既に設置されている車椅子スペースを活用するよう努める。(ベビーカーマークで明示)

○ノンストップ・ワンストップのベビーカー固定ベルト設置



○ベビーカー固定ベルトの固定方法



#### 4. ヒヤリハット体験例

【状況】  
交差点を左折する際、横断歩道手前から自転車車が横断を開始した。



【事故に至らなかった理由】  
横断歩道を横切するため、最終行していたため手前で停車し接触を回避できた。

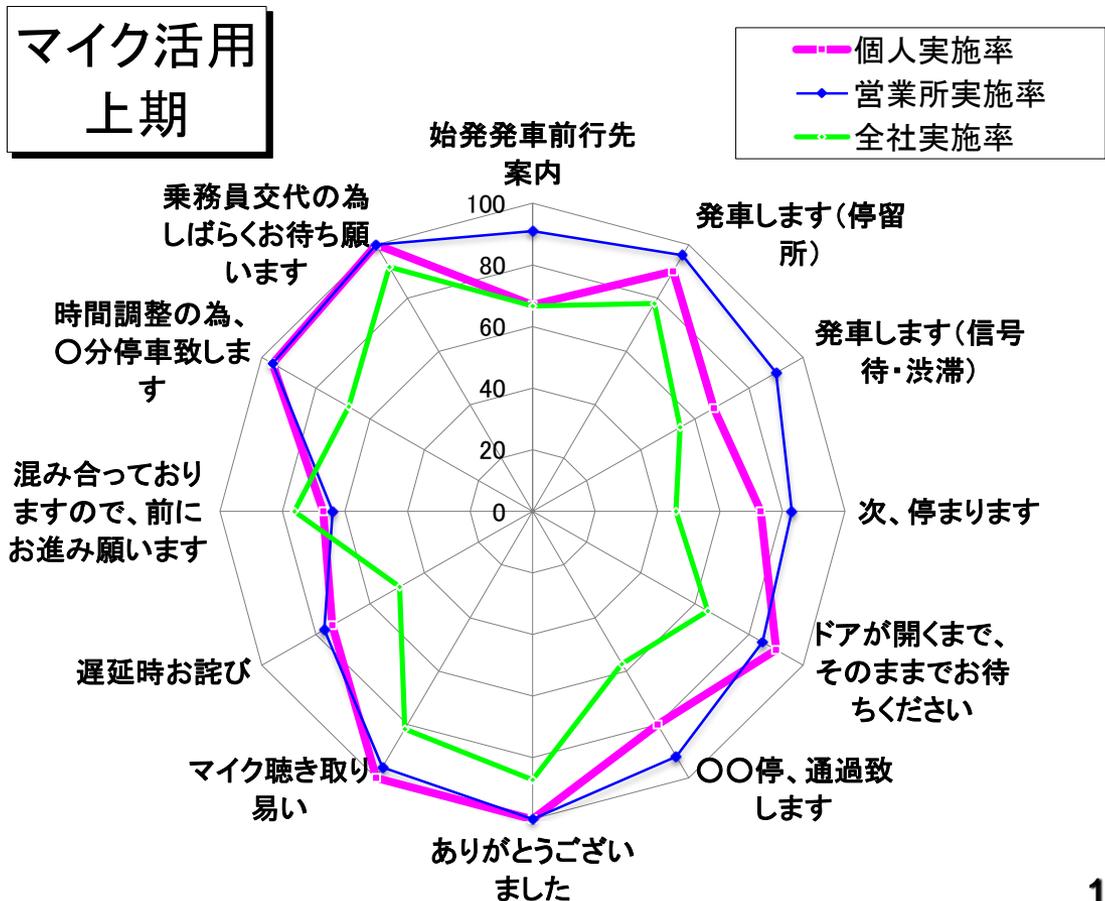
【茨木営業所事例】

## 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

### 「お客様」との接点の活用

- 社員と添乗型モニター様(90名)によるモチカード(添乗診断シート)での運転・接遇の診断

- モチカード枚数  
約35,000枚/年間



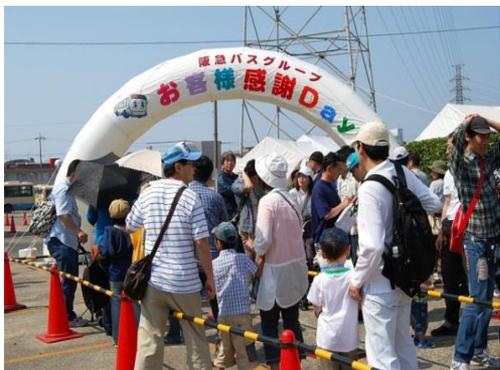
## 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

### モニター懇談会の開催

旅客モニター様からのご意見を聴取、社内誌でフィードバック



### お客様感謝Dayの開催



### 学校MMの実施

公共交通活性化の取組みとして沿線小学校を対象に学校MM〔モビリティ・マネジメント(交通学習)〕を実施

# 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

## 事故データの収集と活用

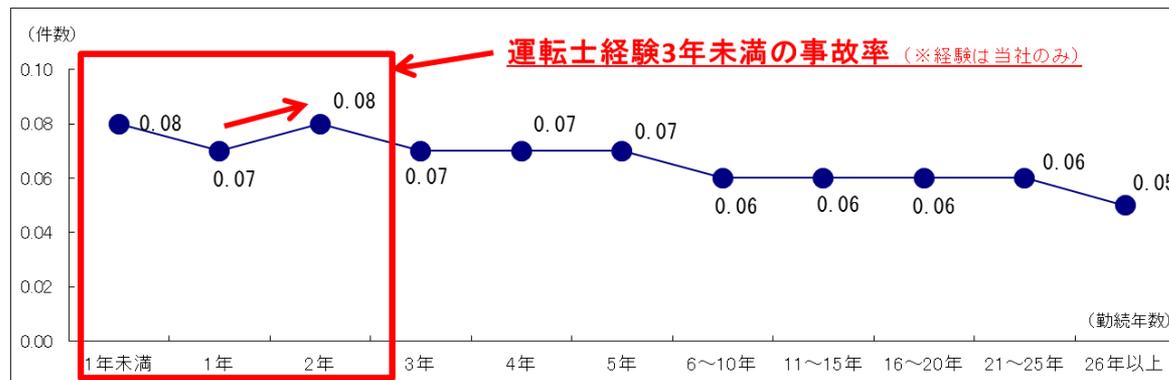
### 事故分析の取組み

毎年度、営業所別に事故内容を区分し削減事故・削減件数を決定

〇〇〇〇年度 マネジメント事故発生状況

営業所	削減対象事故種別		その他事故種別								総計	前年度実績	対前年比	
	人事	人事・人事 車両	車内人事			扉	人事車両		車両	物件				
			バス停 発進時	発進時	停止時		二輪車	後退		後退				
千里														
豊中														
...														
...														
総計														
削減対象事故計 割合	%													

運転士経験年数別 1人当り過失事故件数 (2009~2014年度統計)



# 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

## ヒヤリハットの取組み（視聴覚教材の活用）

### ドラレコ映像を活用した視聴覚情報へ

#### 点呼



#### 講習会



#### 掲示板

○映像のポイント		
前方カメラ	車内カメラ	解説
		片側一車線道路を直進。前方交差点に差し掛かろうとしている。
		交差点左には信号を待つ歩行者。また右には対向車の陰から覗き込むようにこちらを見ている横断歩行者が見える。当該交差点の約30m先には当社のバス停がある。
		右より歩行者が急に横断を開始。急制動を講じたことによる動揺で車内ご乗客が転倒。

#### ○自責(未然防止)のポイント

主原因は歩行者の信号を無視し飛び出したことです。しかしながら、自責として考えれば、交差点、特に歩行者の側方を通過する場合などの側方間隔の保持が困難な場合など、場所的にみて速度を調整しておくべき場所です。

また、当該交差点先(約30m 40km/hで11m/1秒進む)には当社のバス停があることを考えると、車内事故防止の観点からも降車のため立ってこられるご乗客を予見し柔らかいブレーキ操作をするならば減速が必要です。

加えて、進行方向青信号でも、“青信号は「進むことができる」という許可を意味しており、決して「進め」という強制とは限らない”(道交法第2条1項第14号)のです。

アクセルを緩めブレーキを掛けて“かもしれない運転”が必要です。

## 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

### 発生した事故の風化防止

「事故の教訓」による重大事故の風化防止と教育

毎月22日を「当社事故ゼロの日」として、全社で安全運動を展開

《毎月22日「当社事故ゼロの日」の運動》

- ①終日デイライト運行
- ②管理職による早朝点呼立会い及び主要ターミナルでの街頭指導
- ③安全統括管理者による営業所巡視

全従業員による慈善募金活動

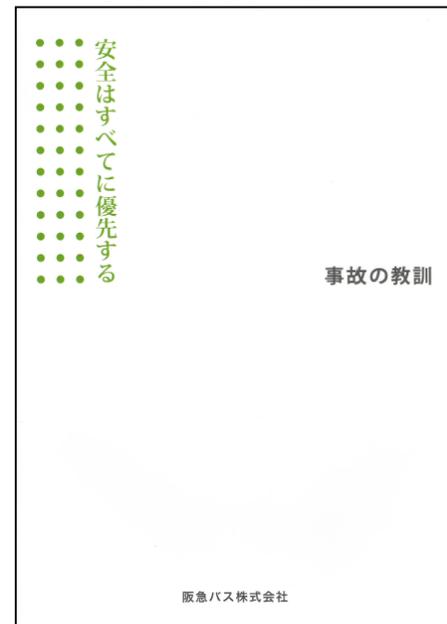
・大阪交通災害遺族会 ・あしなが育英会 他

※「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」より、  
上記の募金額と同額を加算して各団体へ寄付

緊急事態対策合同訓練実施（毎年11月22日開催）

事故の教訓を風化させないよう、毎年11月22日に全社をあげて「緊急事態対策合同訓練」を実施

事故の教訓（冊子）



## 2. 運輸安全マネジメント導入10年の取組み

### 健康管理体制の強化

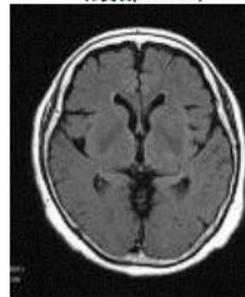
- ・「事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル」の周知
- ・社員のご家族へ「健康の維持管理に対するご協力をお願い」の手紙
- ・スクリーニング検査の充実

#### SAS検査の実施



#### 脳ドック検査の実施

頭部断層画像  
(頭部MRI)



#### カウンセリング相談窓口設置

##### カウンセリング相談窓口のお知らせ

電話カウンセリングも実施中!

大阪・神戸・京都の(社)日本産業カウンセラー協会カウンセリングルームで産業カウンセラーへの相談ができます。予約から相談まで完全に外部対応です。相談しにくい、みなさんの悩みことなどに秘密厳守で対応します。また、電話による相談も可能です。お気軽にご利用ください!!

**対象者** 正社員、契約社員、エルダースタッフ  
**相談費用** 無料！(1人1回 約50分)  
(カウンセリングルームでの相談)  
**利用方法** 予約制(本人が事前に直接予約) **持ち物** 社員証 ※当日社員証で確認します。  
(電話による相談)  
**利用方法** 本人が専用電話番号に直接電話 TEL.06-6126-5710  
相談時間/月-土曜日15時-20時(祝日除外)  
**相談事項** 会社名、社員の氏名 電話番号:0724(※当社社内であることのみ)

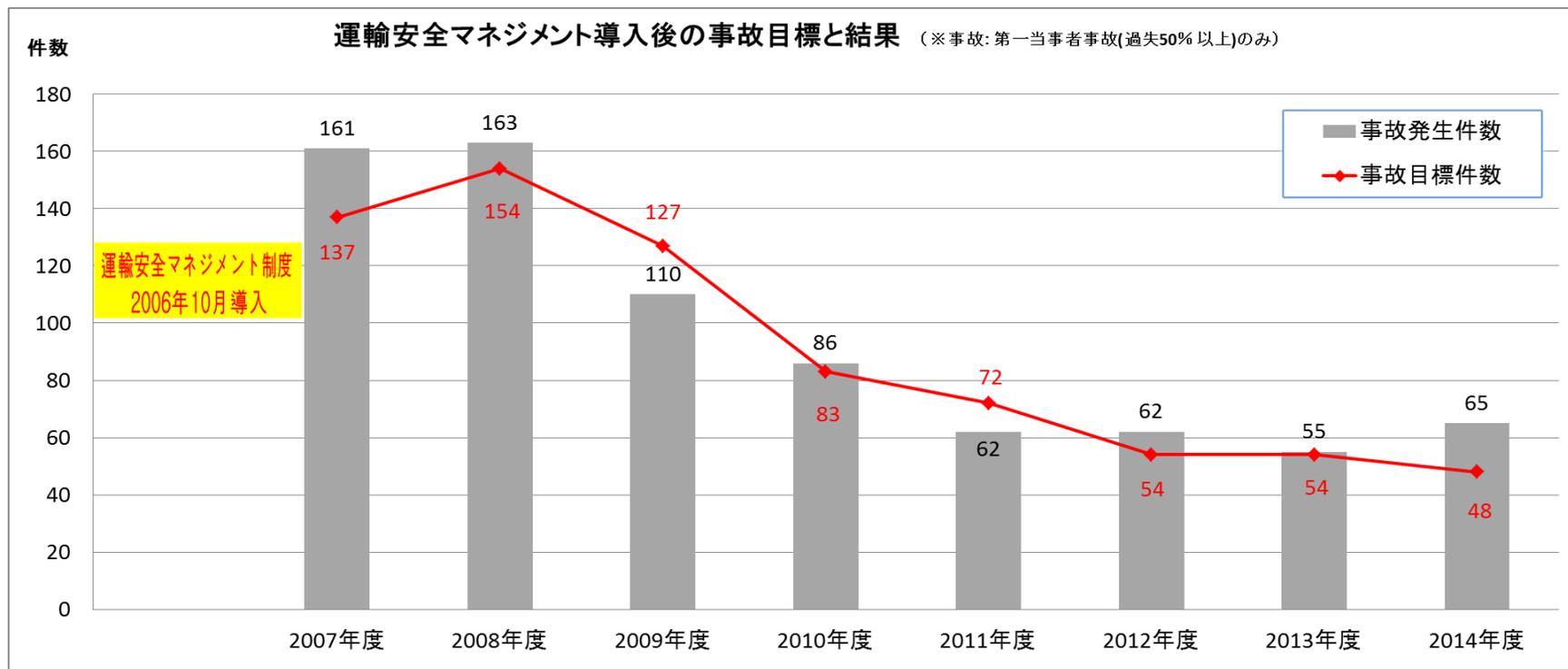


# 3. 安全マネジメント導入後10年間の成果

## 事故目標の設定方法について

- ・「重大事故の撲滅」、「重大な結果につながる危険性の高い事故の削減」を基本に設定
- ・前年度の事故発生状況から上記事故種別を決定し、その発生件数を削減する全社目標を設定
- ・数値目標を達成すべく「安全スローガン」を設定
- ・各営業所は全社目標に加え、当該営業所の路線状況を勘案し事故の削減目標を設定

## 事故件数の推移について



## 4. これから。(直面する課題)

### バス事業を取り巻く背景

- ①大型二種免許保有者の高齢化・減少
- ②大型車未経験者・経験浅薄者の増加

### 直面する課題

- ①運輸事業のDNAをどう植えつけるか？
- ②安全文化をどう浸潤させるか？
- ③技能・知識の向上  
(ゼロベースからの育成プログラムの構築)
- ④経験則(暗黙知)の継承

- ・ 指導者の育成
- ・ 現場力のアップ

ご清聴ありがとうございました。

